****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 354 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2013.07.04（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 ☆☆ 部**********

【山崎記念農業賞表彰式・総会記念講演のご案内】
◎日時：2013 年 7 月 27 日（土）14：00～17：00
◎場所：NTC インターナショナル（株）5Ｆ会議室
　東京都新宿区四谷 3－5 不動産会館ビル 5Ｆ
　東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅下車
　A3 出口より四谷方面へ 50m
　コンビニ「サンクス」隣
◎山崎記念農業賞 表彰式……14:00～15:00
　長野県辰野町　倉澤久人氏（オンワード倉澤）
　表彰理由＝超小型水力発電機の開発及び普及への貢献
　［参考 URL］
　NPO 法人・信州松本アルプスの風
　中川ピコ水力発電所 資料
　http://www.smak.jp/imgdir/1250290754.pdf
◎総会記念講演……15:00:～17:00
　人選未定

※参加費：500 円（資料代等）　懇親会費：4,000 円
※お手数ですが、資料準備の関係がございますので、参加希望者は下記問い合わせ先に事前にご連絡下さい。会員外の皆さんの参加も歓迎します。
※問い合わせ先
　TEL.03-3357-5916　FAX.03-3357-3660（NTC コンサルタンツ・益永）
　e-Mail: y.masunaga@ntc-c.co.jp

□　目　次　　□----------

＜巻頭言＞　新自由主義経済下での貿易とは何か　安富六郎
＜山崎農業研究所　第 145 回定例研究会　速報（要旨）＞
テーマ：TPP 交渉参加を問う―選択肢は TPP だけか？
1. TPP の本質を読む―韓米 FTA を踏まえて
　……金　哲洙氏（日本農業新聞記者）
＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました
＜編集後記＞　身の丈から考えるということ

＜巻頭言＞　新自由主義経済下での貿易とは何か

昔、「最大多数の最大幸福」という政治思想の話を聞いたことがある。“なるほど”と思った。だが、いまは僅か 1%の富裕層の最大利益を目指す猛烈社会である。新自由主義の理念による利益追求の経済、利己的な社会では、環境問題や福祉のような利他的な考えは排除される。このような中で自由貿易をしたら、食料は儲けの商品そのものになる。

イルカや犬の調教には空腹と餌を用いる。この餌ほしさに動物は主人に支配される。鬼の征伐に桃太郎について行く犬はその象徴である。食の力は何と強力な、しかも興ざめな光景であろうかとつくづく思う。

野草やサツマイモの葉も食べた戦争中の苦い体験を通して、食べものと心情との強いつながりを思い出す。生物の心身に最も大切なものは、健康と安全・安心、そして自給できる食料であろう。利己的な新自由貿易では、食料を支配する者は主人となり、従う者はまさにその思う壺だ。

TPP への交渉参加表明がなされる一方で、TPP があたかも相互に豊かな生活と富をもたらすかの如き宣伝がなされている。しかし、新自由主義の思想で食料を押さえられた国は、外国にわれわれの「生き方」を預けたと同様な状態になるのではなかろうか。現政権のうごきをみると、平和憲法、原発反対、農地や自然環境保全など言論の自由までも抑制されそうな気がする。

TPP に参加すればこの国の農業は壊滅的な打撃をうけるという予測もある。食料をこれ以上外国に依存してよいものか。国の自立は、他国に支配されない、食料の自立から始まる。TPP の底流に流れる思想には、表面的な内容以上に重要な意味があるように思う。この大きな影響力、食料による心の支配の可能性を今一度、真剣に考えてみる必要があろう。

安富六郎
山崎農業研究所所長
yamazaki@yamazaki-i.org

＜山崎農業研究所　第 145 回定例研究会　速報（要旨）＞
テーマ：TPP 交渉参加を問う―選択肢は TPP だけか？
期　日：2013 年 6 月 8 日（土）
場　所：NTC インターナショナル　5F 会議室
1. TPP の本質を読む―韓米 FTA を踏まえて
　……金　哲洙氏（日本農業新聞記者）
2. ラテンアメリカの「より良く生きる（vivil bien）運動」に学ぶ
　……吉田太郎氏（キューバ農業評論家）

---

1. TPP の本質を読む―韓米 FTA を踏まえて
　……金　哲洙氏（日本農業新聞記者）

（1）TPP とは何か

2006 年にシンガポール、NZ、チリ、ブルネイの 4 ヶ国間の P4 協定が成立。2009 年に米国が加入した。2011 年に野田総理は APEC 会議で国益の視点に立って TPP の結論を出す旨表明。2013 年、阿倍総理は TPP 交渉参加を表明。政府は米国通商代表部に会議参加を表明。今年 10 月に APEC 首脳会議で決定予定。以上の過程では、その内容はほとんど明らかにされていない。交渉参加国に参加すれば、貿易総額では日本は米国に次ぐ第二位を占める。このことから日本の参加は全体に大きな影響を与える。参加国 GDP で見れば、米国はその 8 割を占める。

TPP の基本的な考えは、すべての品目の関税撤廃。非課税分野や新しい分野を含む包括的協定。参加のメリットは貿易のさらなる拡大、日本の技術ブランドが守れる。日本の企業投資が不当に扱われない。製品が海外（参加国）で差別されない、などがある。一方、デメリットは国内農業の衰退、食の安全基準の緩和、医療サービスの低下、質の低い外国人医師、弁護士、労働者が自由に日本で働ける。公共事業の海外企業への開放、中小企業を守れない。国家主権が失われる。などがある。

（2）賢者は歴史から学ぶ

18 世紀以来の産業発展の歴史を見ると、資本主義の発達過程での CO2 増加、気候変動、化学肥料、農薬の発達で様々な公害、水俣病などが生じた。遺伝子組み換えで生態系も異変が見られる。これらからいかに学ぶかが問われている。

（3）米韓 FTA

FTA（自由貿易協定）を米韓で締結することで、今、韓国農業に大きな変化が生じている。韓国を巡る海外情勢として、世界人口の増大、資源逼迫問題、世界ルールの確立が重要になっている。韓国国内では IMF による外資支配、政治経済の不安定、貧富の格差拡大、北朝鮮問題も係わってくる。FTA 締結以来、農産物輸入急増。都市農村との貧富格差が急速に拡大した。1990 年には都市・農村格差はほとんど無かったが、2011 年には個人収入では農村は都市の 60%になった。その他、法律体系、知的財産権、医薬、保険など広い分野で、米国の都合で制度が変えられている。

（4）TPP の将来、国民の将来

米韓 FTA はミニ TPP と考えてよい。米韓 FTA の教訓として交渉参加表明をを止めるべきであった。今後はいっそうの市民運動との連携が重要である。対策として国会議員などに TPP 反対派を多く送り込むこと。

（5）まとめ

大量消費、弱肉強食の社会を持続的節約消費、協同－競争－共存の「3 キョウ」の社会発展を目指す事が望まれる。

（文責　安富・田口）

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.129』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）
TPP は食の安全を破壊する？◎野口 勲
［第 38 回研究所総会・第 36 回山崎記念農業賞］

総会挨拶◎安富六郎
第 36 回山崎記念農業賞贈呈式（NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク）
〔選考委員報告〕◎田口 均
〔お礼の言葉〕◎渡部よしの
〔受賞にあたって〕有機農業が拓く持続可能な地域づくり◎菅野正寿
〔お祝いの言葉〕◎高橋久夫
［総会記念フォーラム］福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで
⑴3.11 を文明の転換点に◎長谷川 浩
⑵放射能汚染の中での農の営み、この 1 年
　――ネットワークの仲間に支えられて◎渡部よしの
⑶つなぐ・結ぶ・創る――生産と消費、現場と研究◎大江正章
［特別寄稿］
自然栽培を追いかけて◎元田裕次
「坂の上の雲」から「崖の上のポニョ」へ◎吉田太郎
〈連載〉“生きもの語り”の世界から〈1〉
　「生きもの語り」は科学への違和感から生まれた／宇根 豊

＜編集後記＞　身の丈から考えるということ

---

6 月 15 日、哲学者・内山節さんの講演会を聴きに赤羽まで出かけてきた（哲学塾東京分校（の・ようなもの）セミナー（第 13 回））。

今回のテーマは「経済学の課題、経済学の限界―地域自立のための新たな経済哲学概論」である。

中央銀行が貨幣に対するコントロール能力を失っているのが現代という時代である。そのなかで、新しい経済システムの模索がはじまっている。重要なのは過去の経済システムから学びつつ、経済づくりと社会づくりを一体的なのものとして捉え展開していくことである――粗っぽく要約するとそんなふうにいえると思う。

印象的だったのは、会場との応答の場面である。「経済学はいまのグローバル経済を規制するようなうごきをつくるべきではないか…」という質問に対して内山さんはこんなふうに答えた。

「『日本経済』『世界経済』といったような枠組みで捉えようとした瞬間に判断不能になるのでははないか。それよりも『基点』をどこにおいて考えるか。そのほうが重要ではないか」

この応答を聞きながら、わたしは山形県金山町の農林家、栗田和則さんとのやりとりを思い出していた。わたしが栗田さんに「学ぶということと暮らすということの間には、深くて、時には暗い溝があるのかもしれません…」と書き送ったところ、栗田さんからの返信には、「生きるために学び、生きることは日々の暮らしと考えてきました。ムラという小さな社会、小さな人間関係、そして身の丈にあった生き方は、そんなにむずかしいものではありません」とあった。

「基点」とはこのことをいうのだろうとわたしは思った。自分がどこで暮らし、どういう自然と結ばれ、どういう人びととの関係のなかで生きているのか、そのことから発想しない限り意味がないのではないかと。

講演のサブタイトルにある「地域自立」というのも抽象的なそれではなく、具体的な地域やコミュニティとの関係のなかでの生き方から問うたときはじめて意味をもつにちがいない。

2013 年 07 月 04 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

《当日のレジュメより》
経済学の課題、経済学の限界―地域自立のための新たな経済哲学概論
1. はじめに
　――数字で表される世界、数字で表せない世界
2. 危機に立たされた経済世界
　――貨幣をコントロールできなくなった中央銀行…実態を失った貨幣の流通
　――先進国独占の終了…経済成長が雇用、収入と結びつかなくなった時代
　――国債、金融、貨幣の信認が崩壊する時代
3. 新しい経済システムの模索
　――ともに生きる経済、ともに生きるコミュニティ、ともに生きる社会
　――経済を経済だけでとらえることの限界
4. 過去の経済システムから学ぶ

――共同体と結ばれた経済のかたち
――生きる世界の経済と市場経済との調整
――非貨幣経済、貨幣経済
――手間としての労働、時間としての労働
――労働世界と神仏の世界

5. いまなぜエシカル・ビジネス＝倫理的経営が語られているのか
――ソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネス
――フェア・トレード、支え合う金融
――協同組合、従業員所有会社
――支え合う経済と支え合う共同体をいかに一体化させるか

6. 経済づくりと社会づくり
――その一体展開を目指して
――結び合う世界とローカリズム

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（（株）共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回　355 号の締め切りは 07 月 16 日、発行は 07 月 18 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞

****

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 354 号

最新号・バックナンバーの閲覧

http://archive.mag2.com/0000014872/index.html

http://nazuna.com/tom/denshico.html

購読申し込み／解除案内

http://www.yamazaki-i.org

2013.07.04（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人

mailto:yamazaki@yamazaki-i.org

**********ここまで『電子耕』**********